

がメディアと官邸の腐った関係を暴露する

で重大証言

確かにあった 評論家を呼んで とか30万とか」

上杉隆 (ジャーナリスト) と本誌取材班

野中広務氏が官房長官時代に、官房副長官を務めていた鈴木宗男衆院議員。政治とカネの表とウラを知り尽くす彼が、ついに機密費によるマスコミ対策について語った。

*

久々に、野中広務氏が官房機密費について口を開いた。7月28日、関西テレビ『スーパーニュースアンカー』の生放送に出演し、元共同通信記者で現在、独立総合研究所代表の青山繁晴氏と評論家の宮崎哲弥氏の質問に答えたのだ。「機密費を評論家に配った」「田原総一朗氏だけは受け取りを拒んだ」——4月の証言以降、機密費問題について沈黙を続けてきただけに、発言に注目が集まった。

しかしその内容はいえ、個人の名誉を傷つけてはいけませんから」という理由で個人名は挙げず、なんら説明責任を果たすことはなかった。

その代わりに飛び出したのが、私個人への「名誉毀損」の発言だ。「私はね、

上杉さんっていうのはね、無責任だと思っんです。あのね、私にね、いっぺんもですね、インタビュールなにかしたことないですよ。(中略)顔をみたこともない。(中略)だけど、都内の電車のつり革(広告)にはですよ、『野中広務激白』とか、私の名前が出てるんですよ。迷惑至極でしてね」——なぜか野中氏は矛先を私に向けた。

これは明らかな事実誤認だ。まず、野中氏には『週刊ポスト』を通じて取材依頼をしているし、私自身も直接携帯電話をかけ、あるいは関係者を媒介させるなどして、野中氏に取材に応じるよう呼びかけてきた。それに応じなかったのは野中氏ではないか。しかも、私はこの番組にビデオ出演しているが、それは当日の生出演やスタジオ見学、あるいはサブルームでの待機といった私の要望を関テレビ側から拒否されたからだ。

また、中吊り広告の件は、『週刊ポスト』5月28日号の「野中広務氏が暴露した